



県立高校の将来構想

よりよい高校づくりをめざして



山口県教育委員会

県立高校の現状

社会の変化と生徒のニーズの多様化

県内の中学校卒業者のうち約97%の生徒が高校等に進学する中、国際化、情報化など、社会情勢の変化に伴い、高校生の興味・関心や進路希望、価値観が多様化し、生徒や保護者の皆さんから県立高校に幅広い期待が寄せられています。

高校に対する生徒・保護者の主な要望

(平成14年11月 アンケート調査)

- 自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする。
- 技術、技能の習得や職業資格につながる学習を行う。
- 学校行事や部活動などの取組みを活発にする。

中学校卒業(見込み)者数の減少

県内の中学校卒業者数の減少傾向が続く中、全日制課程を置く公立高校の数は昭和63年度以降現在まで67校4分校で、高校の小規模化が進んでいます。その結果、学校の活力が低下し、生徒が互いに切磋琢磨する場が少なくなったりしています。

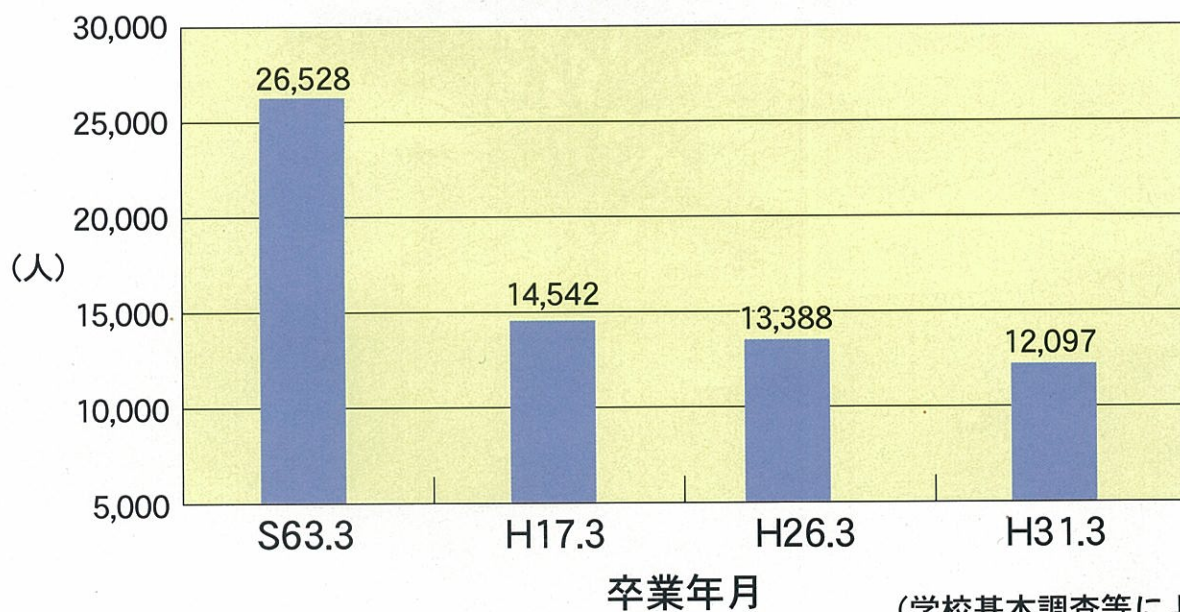
第1学年の1校あたりの募集学級数の平均

(全日制課程 平成16年度)

山口県 3.83学級

全国 5.65学級

本県の中学校卒業(見込み)者数の推移



県立高校のめざす方向

生徒一人ひとりの夢の実現

より質の高い高校教育の展開

確かな学力をしっかりと身に付ける学校

- ◆基礎・基本の定着を図り、個に応じたきめ細かな教育活動を展開する学校
- ◆学力の向上をめざした取組みを強化し、生徒の進路希望に応える学校

将来のスペシャリストの育成をめざす学校

- ◆専門的な知識・技能の確実な習得をめざす学校
- ◆地域の特性や地域の活性化をめざすまちづくりなどを視野に入れた学習のできる学校

生徒の多様な学習ニーズに応える学校

- ◆進路希望に応じて多様な教科・科目から幅広く選択できる学校
- ◆異なる学科をもつ高校間の統合(商業高校と工業高校の統合など)により、自分の興味・関心等に応じて、他の学科の科目が選択できる学校

柔軟な学びのシステムを備えた学校

- ◆生徒の生活スタイルやペースに応じた学習ができる学校
- ◆生涯学習のニーズに応える学校

選択幅の広い教育

活力ある教育活動

多様な人格とのふれあい

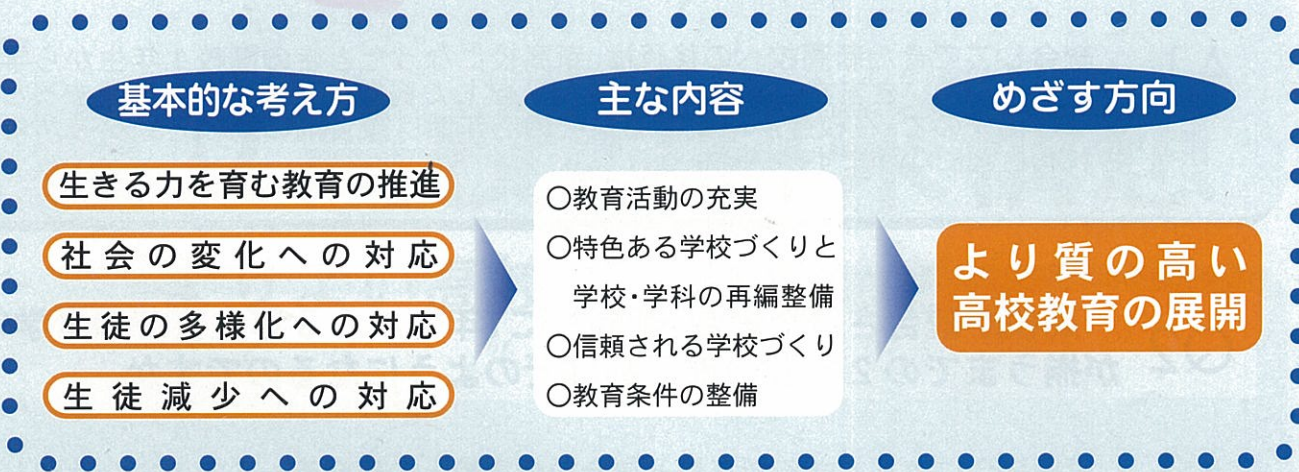
生徒の多様なニーズに対応した特色ある学校

生徒や教職員が生き生きと活動する活力ある学校

地域からの信頼に応える開かれた学校

県立高校将来構想

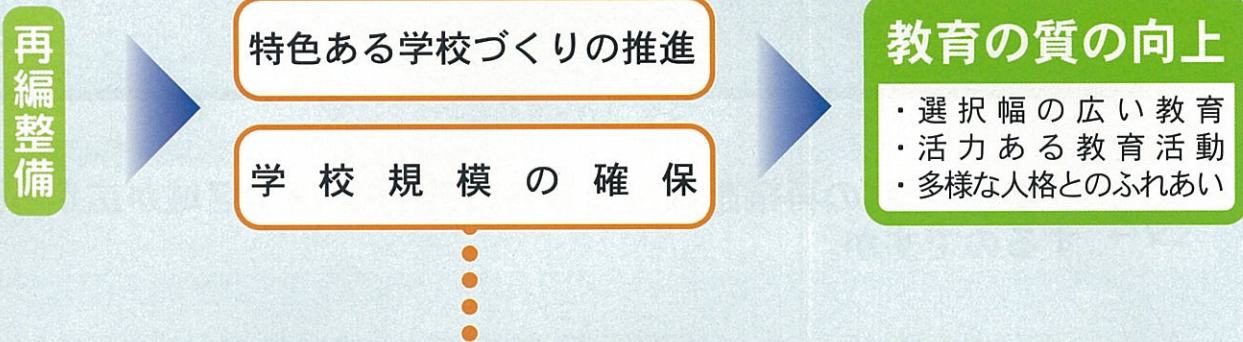
県教育委員会では、本県高校教育の一層の充実を図るため、今後の高校づくりの基本的な考え方や方向を示した「県立高校将来構想」を平成17年3月に公表しました。



学校・学科の再編整備

再編整備の必要性

学校の小規模化が進んだ現状にあって、生徒の多様なニーズに対応した特色ある学校づくりを進め、より質の高い教育を実現するためには、望ましい学校規模の確保をめざした再編整備が必要です。



望ましい学校規模 = 1学年4～8学級

開設科目数、配置教員数、部活動数などから、1学年4学級から8学級を望ましい学校規模とします。

学校規模	2学級規模	4学級規模	6学級規模	8学級規模
開設普通科目数	22.8科目	27.0科目	32.5科目	30.0科目
教員数	18.3人	30.0人	42.5人	53.0人
部活動数	10.4部	18.9部	21.0部	30.0部

再編整備の進め方

◆1学年3学級以下の学校

望ましい学校規模の確保をめざし、1学年3学級以下の小規模校同士だけでなく、小規模校と4学級以上の学校との再編統合等についても検討します。

- 再編統合により望ましい学校規模を確保する学校
- 1学年3学級規模で維持する学校

[1学年3学級の中高一貫教育校及び定時制課程併設校は学校全体の学級数を考慮]



【検討の対象となる学校】

・岩国商業 ・高森 ・安下庄 ・久賀 ・柳井商業 ・柳井工業 ・熊毛南 ・田布施農業
 ・田布施工業 ・華陵 ・熊毛北 ・徳山北 ・徳山商業 ・徳山工業 ・南陽工業 ・美祢
 ・小野田工業 ・大嶺 ・美祢工業 ・田部 ・西市 ・下関中等教育学校 ・響
 ・豊北 ・日置農業 ・水産 ・萩商業 ・萩工業 ・奈古 (29校)

- 最小学校規模(1学年2学級)で維持する学校
- 分校化する学校

[生徒の通学の実態などから望ましい学校規模の確保をめざした再編統合が困難な場合]



【検討の対象となる学校】 ・坂上 ・広瀬 ・鹿野 ・佐波 ・徳佐 (5校)

◆全日制課程を置く分校

募集停止の方向で検討します。



【検討の対象となる学校】

・熊毛南上関分校 ・田布施農業大島分校
 ・徳佐高俣分校 ・奈古須佐分校 (4校)

今後の進め方

- 平成17年度に、学校・学科の再編整備に関する実施計画を作成します。
- 実施計画は、4年単位で作成し、2年毎に見直しをします。
- 中学生への早期情報提供のため、各年度の実施分を、原則として入学定員発表前に公表します。

H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
	公表 H18~21年度の計画								
		公表 H20~23年度の計画							
			公表 H22~25年度の計画						
				公表 H24~26年度の計画					

Question & Answer

Q1 高校が統合された場合、在校生も新高校の生徒になるのですか。

A1 統合してできた新高校への移行は、新高校になったときの高校1年生から学年進行で進んでいきます。つまり、在校生は入学した高校の生徒として卒業することになりますので、在校生が卒業するまでの2年間は統合前の高校と新高校が併設されることになります。

Q2 高校が統合された場合、新高校に1年生から3年生までの全学年が揃うまでの2年間の部活動はどのようになるのですか。

A2 再編統合によりできる新高校と統合前の高校との連合チームでの大会参加が認められています。もちろん、単独チームでの参加も可能ですから、各部活動の状況を考慮して大会参加の形態について検討していくことになります。なお、統合により学校規模が大きくなることから、部活動についてもこれまで以上に生徒のニーズに対応できるとともに活力ある部活動を展開することができます。

Q3 学校・学科の再編整備が進められる中で、中学生の進路選択に支障が出たりしませんか。

A3 「今後の進め方」の項で示しておりますように、実施計画は4年単位で公表するとともに、各年度の実施分を原則として定員発表前に公表し、中学生の皆さんが安心して高校選びができるよう、早期の情報提供に努めます。

Q4 学校・学科の再編整備が進められる中で、通学区域が広がったりするのですか。

A4 普通科の通学区域は、当面現在の7通学区域としますが、学区外からの入学枠を超えた志願がある学校もある現状から、学区外からの入学枠を拡大する方向で検討していきます。また、将来的には、県下全域ということも視野に入れていきます。

おしらせ

県立高校将来構想の全文はインターネットのホームページでご覧いただくことができます。
ホームページアドレス <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50300/kousou/index.html>

問い合わせ先 山口県教育庁高校教育課高校改革推進班 TEL083-933-4636 FAX083-933-4619